



創立から現在までの中央大学の歴史に迫る！
カラー図、豊富な写真と図表を掲載

◆ 中央大学 140 年の歴史を総括

1885 年に若き法律家らが集い、神田錦町に英吉利法律学校を設立してから 2025 年で 140 年を数える。「実地応用ノ素ヲ養フ」を建学の精神に据え、「質実剛健」を旨としてきた本学はいかなる歴史をあゆんできたのか。本書は、創立からアジア・太平洋戦争までを第 1 部、戦後から 1980 年代までを第 2 部、1990 年代から現代までを第 3 部で扱う。日本社会の出来事と対応させるため、時代背景を摘要した「解説」が理解を助ける。神田錦町・駿河台・多摩などの各キャンパスの変遷や整備の過程、多様化するニーズにこたえるための大学の取り組み、附属校についても言及する。歴史の荒波を乗り越えてきた中央大学 140 年のあゆみを描き出す。



中央大学大学史資料館運営委員会編

中央大学
140
年
の
あ
ゆ
み
1885-2025

英吉利法律学校に始まる中央大学が、社会と深くかかわりながら発展していく過程を、複雑化する現代の取り組みにも触れつつ振り返る。

中央大学大学史資料館運営委員会編

中央大学 140 年のあゆみ 1885-2025

2025年12月刊行 定価2,310円（本体2100円+税10%）

A5判・並製・カバー装・406頁 ISBN978-4-8057-4153-5

目 次

カラー口絵（8頁）

刊行によせて

第一部 英吉利法律学校の成立と展開

解説① 学校設立前後の日本社会

第一章 一八人の創立者たち

第二章 英吉利法律学校の開校と教育

第三章 政府の私立学校関連法制と英吉利法律学校

解説② 明治中期から大正期の日本社会

第四章 法典実施延期運動と英吉利法学、東京法学院

第五章 中央大学の誕生

第六章 大学令前後の中央大学

解説③ 昭和戦前期の日本

第七章 戦争と中央大学

第八章 戦前の学生生活—運動会と大学祭—

第二部 旧制大学から新制大学へ

解説④ 戦後の日本社会

第九章 新制大学への再編と女子学生の誕生

解説⑤ 学生運動の時代

第一〇章 大学の民主化を求めて

第一章 「中央大学新聞」に見る駿河台時代の学生生活

解説⑥ 高度経済成長期の日本社会

一二章 「中央大学施設基本計画」に見るキャンパス構想の歴史的変遷

第一三章 仮執行体制と中央大学の学生運動

第一四章 多摩移転期の学生生活（一九七八—一九九九）

第三部 中央大学の現在と未来

解説⑦ 一九九〇年代の日本社会

第一五章 カリキュラムの変遷と保健体育科目

第一六章 夜間部の廃止と学際領域への展開

解説⑧ 二〇〇〇年代の日本社会

第一七章 中央大学アイデンティティーの再定義

第一八章 専門職大学院の設置と都心キャンパスの整備

解説⑨ 近年の日本社会

第一九章 國際化と多様化に向けて

第二〇章 科学技術の発展と理工学教育の進化

第二一章 総合学園への道

中央大学高等学校／中央大学附属中学校・高等学校／中央大学杉並

高等学校／中央大学附属横浜中学校・高等学校

第二二章 中央大学の危機—災害・感染症—

中長期事業計画「Chuo vision 2025」と本学の近年のあゆみについて